2022年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 七野会	代表者	井上ひろみ
事業所名	小規模多機能型居宅介護 金閣こぶしの里	管理者	山下治輝

法人・事業所の特徴	法人理念の一つである「その人らしく生きる」ことを大切に援助を行います。 自宅での生活を続けるうえでニーズに合った援助と、出来るだけ自立した生活を行えるように援助を行っていきます。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	０人	０人	１人	０人	３人	１人	０人	21人	０人	26人

項　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	新規利用時に、初日と一週間後にミーティングをおこない援助を深める。現利用者の事例を振り返り成功体験を全職員に共有する。	新規利用時の初日と一週間後のミーティングなどでの話あいはできている。しかし、職員間で情報収集にムラがあることが課題。	様々な雇用形態があり、情報共有は難しい部分もあるだろう。情報収集の時間や環境をつくるなど仕組みを考えてみてはどうか。	新規利用者や事業所の取り組みの情報共有は、全職員が情報収集できるように回覧チェック表をつける。
B. 事業所のしつらえ・環境	委員会中心に清潔保持、整理整頓に取り組む。感染予防の観点から、適切な消毒液の設置や職員への注意喚起をおこなう。	必要な場所に消毒が設置されている。委員会は動けていないが、日常的な掃除実施の意識は高い。いつもきれいにしている印象。	日頃からきれいにされているので、このまま継続してもらえれば良いと思う。	日常的な掃除、整理整頓を継続的に取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	日常的な挨拶は継続し関係性をつくる。 地域の拠点となれるよう他事業所から情報収集をおこなっていく。	お隣の方は、避難訓練への参加等もあり、関係性はできている。 他事業所からの情報収集はできていない。	感染状況もあり地域との関りは難しい面もある。行事など動きだしているところもあり、どう結びついていくかを考えていく。	近隣住民との関係性を継続、地域の年間行事一覧表などで情報収集し、計画的に地域行事への参加機会を探る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域会議は参加できない職員にも回覧や口頭で共有する。 社会資源は現利用者の事例から学ぶ機会をつくる。	地域会議へは積極的に参加できている。地域会議で事例発表もあり、地域に視点が向いている。情報共有は不十分。	感染症の影響で難しい面もある。消防訓練の参加など良かった。地域資源については学習会も重要。	利用者の地域資源について理解を深めるためのツールを作成し地域資源の再アセスメントを実施する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	家族の参加促しは社会情勢を見ておこなっていく。	家族への参加は感染症の影響もあり積極的にはおこなえていない。	他事業所は家族参加もみられる。参加促しはしても良い。事業所の取り組みを家族に周知する仕組みがあれば良い。	家族への参加を呼びかけていく。 運営推進会議の内容や日頃の取り組みを広報誌等で家族へ周知していく。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練に地域包括職員を招く。 備蓄の管理方法など防災関連について他事業所から実施方法などを聞く。	避難訓練に運営推進会議メンバーに参加してもらうことができた。防災関連での他事業所から話を聞くことはできていない。	地域の防災意識を高めるような発信などができないか？ BCP作成中であり、今後共有してほしい。	BCP（災害計画）を作成し、運営推進会議で情報共有をおこなう。 地域の防災訓練など実施があれば参加していく。